



けやきっ子

東根市立東根小学校
学校だより

No. 3

令和2年6月22日発行

求められる新しい生活様式

校長 長瀬 広幸

例年であれば、けやきっ子の陸上大会の成果を讃えているはずなのですが、数多くの大会が中止となり、それができないことがたいへん残念でなりません。素晴らしい結果が期待できる子供たちだけに一層悔しさがこみあげてきます。私たちですらそうなのですから、選手である子供たちの喪失感はいかばかりかと思います。それでも、不満を口にせず、黒板を見据えて学ぶ姿に、東根小の子供たちの強く凛とした心を感じずにはられません。

新型コロナウイルスの新たな感染者が一月半の期間出ていませんが、感染の恐れが無くなったわけではありません。北九州市の第二波は突然でした。感染者ゼロが続いていたところにクラスターの出現です。私たち山形県も対岸の火事とせず、その教訓から学ばなければなりません。もう大丈夫という油断が最も危険です。私たちに求められるのは、コロナウイルスが存在し続ける中で、正しく恐れる知識と態度を身に付けることなのだと思います。それが、できる限り感染リスクの低い行動を選択しながら、学習活動や生活行動を行う新しい生活様式です。

先日、「登下校におけるマスクの着用」というお知らせを配付しました。これから真夏日や猛暑日を迎える中で、熱中症のリスクとも向き合わなければならなくなっています。ここで求められるのが、マスクを外す際の「ソーシャルディスタンスを保った上で声を出さない」という正しく恐れる知識と態度です。声掛けをしないと約束がどんどん形骸化し緩んでいくのが子供です。だからこそ、繰り返し引き締める大人の指導が必要です。それを繰り返していく中で、大人の目が行き届かないところでも、子供同士で声掛けし合う「自分の命は自分で守る知恵と態度」が育っていくのだと思います。

学校再開からようやく一月を過ぎ、学力の保障はもちろん、子供にとってかけがえのない修学旅行や運動会といった教育活動の保障について考えなければなりません。まず、授業時数の確保のため、7月いっぱいには登校日にして授業を行っていきます。修学旅行は、会津・福島方面を目的地として、宿泊地を県内の小野川温泉とし、新たに県外への自粛勧告が発せられても可能な計画を練っています。1～5年の校外学習も、クラスごとに大型バスを利用し、密を避ける対策をとります。運動会も、待機時にマスクを着用できる10月に延期します。そのため、これから保護者の皆様をお願いしなければならないことがたくさんありますが、子供ファーストでの対応であることをご理解いただきご協力をお願いいたします。

